

骨 盤

吉川 宏起*

骨盤腔は解剖学的にはほぼ左右対称，かつ一定の構造をしている．また胸腹部と異なり，心拍動，呼吸，消化管蠕動による motion artifact が少なく，コンピュータ断層 (CT) に有利な条件を有している．しかし，CT が骨盤内臓器の診断上，従来の検査（腹部単純撮影，断層撮影，経静脈性排泄性尿路造影，超音波断層 (エコー)，骨盤動脈造影，逆行性膀胱造影，子宮卵管造影など）による情報に付加する新たな情報を提供するのでなければ，検査を施行する意義は失われる．

本稿は骨盤腔の腫瘍性病変を中心に症例を供覧し，CT による診断，その限界および適応について述べることにする．

* Koki YOSHIKAWA 東京大学医学部・放射線科